

(一般質問)

質問日	令和3年12月2日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	8	会派名	自由民主党浜松	議席番号	41	氏名	花井 和夫
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 今後の大型スポーツイベント等の誘致について	<p>スポーツの大会やイベント等を誘致することにより、まちづくりや交流人口の拡大など地域の活性化、さらには子供たちのスポーツへの関心を高め次世代の若者の育成につなげていくスポーツコミッションは、本市のさらなる発展に重要であると考えます。本市におけるスポーツコミッション推進担当課長を設置するきっかけとなり、多くの人に勇気と感動を与えたラグビーワールドカップや東京2020オリンピック・パラリンピックが終了した。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) ポストコロナを見据え厳しい状況下ではあるが今後どのような大型スポーツイベントを誘致しようとしているのか伺う。</p> <p>(2) 具体的に決まっている誘致目標があるのか伺う。</p>						鈴木市長
2 「歴史都市・浜松」の実現について	<p>文化財保存活用地域計画が策定され、様々な具体的な取組が始まっている。9月には策定を記念したシンポジウムがオンラインで開催され、「文化財の保存と活用がつむぐ歴史都市・浜松の未来」と題して様々な観点から報告や意見発表が行われた。歴史・文化・自然を生かしたまちづくりを目指し、地域や市民が総がかりで後世へつなぐ仕組みづくりが求められている。また、計画において本市の歴史文化の特徴を12の項目で示しており、その一つである秋葉街道を通じた交流と信仰は、地域の歴史文化として庶民生活にも根づいており全国的な広がりを持っている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 計画の実行には地域や市民の関わりが重要とされており、「歴史都市・浜松」をどうつくっていくのか伺う。</p> <p>(2) 秋葉街道を通じた交流と信仰について、どのように活用し発信していくのか伺う。</p>						中村文化振興担当部長
3 浜松市歌について	<p>(1) 浜松市歌について</p> <p>現在の浜松市歌は、政令指定都市移行を機に制定され、浜松の風景やイメージを織り込み未来に向けた格調高い素晴らしい市歌である。しかし、市民アンケートの結果等を見ると、市歌を知っていて歌うこともできる人は数%であり、存在すら知らないと答える人も多く認知度は低い状況にある。そこで、浜松市歌についてどう生かし、認知度の向上に向けて普及啓発を行っていくのか伺う。</p>						金原総務部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(2) 旧浜松市歌について</p> <p>本年は市制110周年の年であるが、市制10周年を記念して大正10年(1921年)に旧浜松市歌が制定され今年でちょうど100年となる。作詞は森鷗外、作曲は本居長世であり、全国で森鷗外が作詞した市歌は、横浜市歌と旧浜松市歌だけである。遠州国学の祖である賀茂真淵や徳川家康公を回顧した風格ある作品であり、このまま埋もれてしまうことを惜しむ声も多い。そこで、旧浜松市歌の顕彰について伺う。</p>	<p>中村文化振興 担当部長</p>
<p>4 花と緑のまち・浜松について</p>	<p>本市では、これまで市民の関心や取組により花と緑のまちづくりが推進され、花と緑の文化が根づいている。平成16年(2004年)開催の浜名湖花博では、市民ボランティアの大きな活躍もあり、花と緑のまち・浜松を国内外に発信するとともに推し進める機会となった。本年3月に策定された緑の基本計画では、「みどりによって持続的に発展するまち・浜松」を目指し10年間の取組が示されている。この計画の中で花と緑のまち・浜松を推進し、都市ブランド力の向上、愛着心の向上を図ることとしている。フラワーパークや緑化推進センターとのさらなる連携も必要となる一方、地域で活動している花の会では高齢化等の課題があり、市民の意識向上に向けた取組が必要となっている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 地域の花の会をはじめとした花の団体の現状と課題をどう捉えているのか伺う。</p> <p>(2) 今後、花と緑のまち・浜松の推進について、市民意識の向上など今後の展開について考えを伺う。</p>	<p>奥井花みどり 担当部長</p>
<p>5 子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実について</p>	<p>本市の総合戦略において「創造都市・浜松」の未来を担う「ひと」を育てる中で、第2・第3のノーベル賞受賞者の育成を目指し、「子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実」を掲げ、産官学の連携により将来の浜松を担う人材育成を目指すとしている。国においても、科学技術は国力に直結するとしており重要施策としている。本市においても、卓越した技術と知見を有した先人がものづくり都市をつくり発展させてきた歴史があり、今後も持続可能な発展を期するためにも優れた人材の発掘そして育成は欠くことができない。特別課外講座の実施により成果を上げてきているが、高校、大学進学そして就職までのつなぎや浜松との関わりをどう持たせていくかが課題であると感じる。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 子供の興味を引き出す機会を設け、子供の才能を伸ばす特別課外講座をどのように取り組み、成果につなげてきたのか伺う。</p> <p>(2) 講座修了後の本市との関わりを持たせることなど、今</p>	<p>中村文化振興 担当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	後の事業展開をどう考えているのか伺う。	
6 避難所運営に関して	<p>災害関連死は、災害による直接死とは別に災害による負傷の悪化や避難生活における体調悪化等で亡くなることをいい、災害弔慰金の対象となる。東日本大震災では3774人、熊本地震では死者全体の8割を占める221人となっている。救うことができる命であり、想定される南海トラフ地震においても災害関連死が起こり得ることが見込まれ、対策を講じておくことが必要と考える。国においても避難所の生活環境の改善などに取り組んできており、災害関連死を防ぐため避難所の居住性向上や人材育成を行いデータベース化し派遣を目指すとしている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 避難所における生活環境整備など、災害関連死を防ぐ対策について伺う。</p> <p>(2) 今後の避難所運営の人材育成について伺う。</p>	小松危機管理監
7 消防行政について (1) 多様化する救助事象に対する体制整備について (2) 消防指令システムの高度化について	<p>(1) 全国各地で毎年のように起こる土砂災害の発生など災害が頻発化・激甚化しており、人命の救出に向けて救助技術や資機材の高度化とともに、消防の広域応援や関係機関との連携が求められている。本年7月の熱海市で発生した土石流災害は記憶に新しく、危険な状況下での救助作業は困難極まりない。救助を取り巻く状況は常に変化しており、国においても救助技術の高度化に向けて検討を行っている。そこで、本市における消防救助技術及び救助人材の育成や確保に関する取組について伺う。</p> <p>(2) デジタル化やICTの急速な進展に伴い、令和3年1月に国において消防指令システムの高度化等に向けた検討会が設置されシステムに求められる基本的な機能等を検討するとしている。本市の消防指令管制システムは平成24年の運用開始以来9年が経過しており、市民の生命・財産を災害から防除する消防業務の基盤となる消防指令管制システムを令和6年に運用開始予定で更新するとしている。そこで、消防指令システムの高度化と更新に向けた取組について伺う。</p>	猪又消防長